

合唱指揮 57年
郡司博
プロデュース



間宮芳生：ピアノソナタ第4番

《よだかの星》

朗読とピアノのための（文：宮沢賢治）

ピアノ：石田千飛世／朗読：見角悠代



岩河智子：かなしいおとなのうた

作詩 吉原幸子

指揮：原田光／ピアノ：前田奈央／合唱：日歌合唱団



三善晃：金子みすゞの詩による《五つの詩曲》

三善晃：北原白秋の詩による《五つの唄》

指揮：郡司博／ピアノ：小林牧子／合唱：日歌合唱団

2024 **8/17** [土]

18：00 開場 18：30 開演

小金井宮地楽器ホール大ホール

JR 中央線武蔵小金井駅南口

全自由席 2000 円

■主催 小金井バッハ・モーツァルトアカデミー

■チケットお申し込み おんがくの共同作業場

042-522-3943 <http://gmaweb.net/npo/>

※駐車場はございませんので公共の交通機関をご利用ください

※未就学児のご入場はご遠慮ください

※曲目、演奏順、出演者が変更する場合があります



閉塞感漂う中にあっても燦然と輝く日本の詩人^{つたひと}たち

若き作曲家たちはその歌化へと邁進した。

私たちもその跡をひよこひよこ追いかけて歩む！

たとえその道は長くとも。

三善作品の詩の深読みは私の正当な老いすら認めないのだ…

27人の^{おんな}音女との歩みをお聴きあれ。 郡司博

間宮芳生：ピアノソナタ第4番

《よだかの星》

朗読とピアノのための（文：宮沢賢治）

～よだかは実に醜い鳥です～

プロローグ/ミゼリー/ファンタジー/アリア/飛翔/エピローグ

間宮芳生：1929年生まれ。東京音楽学校（現東京芸大）卒業。池内友次郎に師事。バルトークに触発され、卒業直後より民俗音楽研究に力を入れる。53年、外山雄三、林光と『山羊の会』を結成。社会に目を向けたその姿勢は、日本民謡のだけでなく、ジャズやアフリカ民俗音楽を素材とした独自の作風を確立していく。ピアノの名作も多い。尾高賞、文化庁芸術祭大賞、ザルツブルグTVオペラ金賞など受賞多数。紫綬褒章、勲四等旭日小綬章受章受賞。

岩河智子：吉原幸子 作詩

かなしいおとなのうた 1991年初演

喪失ではなく／Jに一めざめた時／ひとで／

Jに一おまへの生まれた翌る晩

岩河智子：国立音楽大学作曲科首席卒業、同大学院音楽理論科修了。誰もが知っている歌を大胆に作りかえ、原作の魅力をさらに広げてゆく独自の「編作童謡」に取り組む。編作と歌劇をミックスさせた独特な創作オペラを各地で上演。特にオペラ「中山晋平物語」は平成17年の東京文化会館舞台芸術創造フェスティバルに招聘され、満場の喝采を得た。また、子どものためのオペレッタワークショップや、全国各地の合唱団のために合唱曲、オペレッタなどの作曲を続ける。

三善晃：金子みすゞの詩による

《五つの詩曲》 2002年初演

草の名／楽隊／帆／風／蜂と神さま

三善晃：北原白秋「思ひ出」より

《五つの唄》 1983年春完成

曼珠沙華／あひびき／にくしみ／あかんぼ／^{とらぎ}紺屋のおろく

三善晃：1933年生まれ。東京大学文学部仏文科に入学。在学中53年「ソナタ」が第22回日本音楽コンクール作曲部門第1位、54年「ピアノと管弦楽のための協奏交響曲」が尾高賞、文化庁芸術祭奨励賞を受賞、以後多数受賞。55年パリ音楽院に留学。帰国後東京大学に復学、卒業。多くの管弦楽、室内楽、歌曲、合唱曲を発表。とりわけ72年「レクイエム」、79年「詩篇」、84年「響紋」の反戦三部作はその名声を不動のものとした。2013年没。

ピアノ：石田千飛世

東京藝術大学音楽学部作曲科を経て、同大学修士課程作曲専攻2年次在学中。学内にて長谷川良夫賞、同声会賞を受賞。2021年度公益財団法人青山音楽財団奨励学生。2023年度福島育英会奨励学生。作品は、ダルムシュタット夏季現代音楽講習会(ドイツ)をはじめ、国内外で演奏されている。

朗読：見角悠代

東京音楽大学大学院修士課程を首席で修了。日生劇場『後宮からの逃走』のブロンデ役でオペラデビュー以降数々のオペラ公演に出演。日本初演オペラの難役を含め、確かなコロラトゥーラと高い演技力でいずれも高い評価を受けている。宗教曲等のソリストの他、オペレッタ・子供のためのコンサート・サロンコンサートなど全国各地で幅広く活躍。東日本大震災後に一連の歌曲を収録したCD「貝殻のうた」、21年に日本歌曲アルバム「はるのうた」をリリース。二期会会員。

指揮：原田光

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。同大学院音楽研究科修士課程声楽専攻修了。オペラ、宗教曲のソリストとして活躍。水と緑のまち江戸川新進音楽家コンクール声楽部門入賞。ブルクハルト国際音楽コンクール声楽部門第3位。下田国際コンクールプロフェッショナル部門第2位及びハリス賞受賞。セイジ・オザワ松本フェスティバル室内楽部門リートデュオにて出演し、ドイツリートデュオの第一人者である白井光子氏の元でドイツリートを学ぶ。本年5月の『冬の旅』リサイタルは好評を博した。

ピアノ：前田奈央

東京藝術大学音楽学部作曲科卒。東京藝術大学院音楽研究科音楽文化学ソルフェージュ専攻修士課程修了。JOC シティコンサート千葉、新潟、東京で自作曲を演奏。2016年ピティナコンペティション連弾上級全国大会出場。23年日本ソルフェージュ研究協議会主催の第15回 研究発表会にて、「調性と無調のはざまにおける演奏解釈～アルバン・ベルク《7つの初期の歌曲》から～」の研究発表を行う。現在は声楽伴奏を中心とするピアノ演奏活動に加えて、作曲やソルフェージュの指導を行うなど、活動の幅を広げている。東京音楽大学ソルフェージュ部会助手。

指揮：郡司博

指揮を山田一雄、ハンス・レーヴライン両氏に師事。合唱指揮者として内外一級の指揮者と共演しプロオーケストラの代表的な演奏会でも活躍。バッハを中心とするオラトリオ指揮者としても活躍。ザルツブルグ大聖堂より5回にわたり指揮者として招聘された。今回のコロナ禍において、安心して合唱できるために一人一人の空間をキャビン化したシンガーシールドを考案。認定NPO法人おんがくの共同作業場代表理事。

ピアノ：小林牧子

武蔵野音楽大学卒業。ピアノを水本雄三氏に師事。合唱団のピアニストを務め、チェンバロ、オルガン奏者としても活動している。スロバキアフィル、新日本フィル、東響、東フィル、都響、東京シティフィル、オラトリオ・シンフォニカ JAPAN、アンサンブル of トウキョウと共演、ソロではラフマニノフ作曲『ピアノコンチェルト第2番』、サン＝サーンス『交響曲第3番 オルガン付』のオルガン、バッハ『ブランデンブルク協奏曲第5番』のチェンバロを演奏。